

第 15 回（仮称）市民活動推進条例検討会 記録

日時：平成 29 年 4 月 29 日（土） 9 時半から 12 時

場所：823 会議室

(挨拶)

- ・9 月議会を目標に条例を進めていきたい。条例を作ることがゴールとは決して思っていない。これまで 1 年間検討してきたことを条例として次のステージに載せたい。特に市民活動支援、協働というものを市民の手でハンドリングしていくという事を 20 年も前から市民の皆さんのが出ていたところで、今回初めて具体的な形になろうとしているところなので、条例というステップを踏んで次のステージへ皆さんと上って行きたい。よろしくお願ひします。

(事務局)

- ・議題に入る前に、NEC さんから条例検討の様子を動画で PR するという提案を昨年度末にいただいて、今年度、できれば地域のつながり推進課としても検討会の雰囲気が伝わるようなホームページを実現させたいと考えている。色々まだ技術的な問題など具体的にどういう形でいつ公開するということは決まっていないが、また皆さんにご協力いただくことがあると思うのでその時はよろしくお願ひします。

今日の議題に沿って、まず指針案について前半意見交換をさせていただきたい、その後また条例素案について意見交換させていただきたい。

これまで指針については 1 月以降 4 回も検討会でご意見をいただいている。今回指針の案が条例の理念を実現できるものとなっているかその辺を念頭においてこれまで検討してきた市民活動推進、協働推進の考え方、そういうことが書かれているかどうか確認をしていただきたい。時間も限られているので指針を全部チェックするわけにはいかないので概要版を今回作らせていただきましたのでそれを中心に見ていただきたい。

- ・もうお分かりのとおり形が整ってきていいよ出せるようになってきた。

市民グループの視点から、またいろいろやってきた経験からこのテーブルについているが、ゴールが近づくほど、どんどん場が固くなってくる傾向がある。その時こそ市民目線の柔らかさが大切になって来ると思う。

次長は鎌倉における市民活動、協働のあるべき姿を見て來たので事情がわかっている。だが、一方で責任者の立場になると変わる。そこを市民側から変える。良い協調関係を作り楽しく頑張っていきましょう。

- ・(事務局) 資料番号は、次第を①、名簿を②、一番厚い指針を③、指針概要版を④、3 月 18 日付けの指針を⑤、条例案 1, 2 を⑥、条例案 3 を⑦、前回の意見まとめを⑧とする。

【指針について】

(事務局)

・指針概要版は、今まで検討してきた指針の概要というかたちで骨格的なものをまとめたものである。これについては内容的には変わっていない。概要版で「はじめに」とあるが、これは今まで検討してきた指針と変わりはない。「基本的な考え方」についても（1）「自分たちのまちの為に行動する活動（市民活動推進）の基本的な考え方」、（2）「協働推進の基本的な考え方」、細かいものは③の指針の中に書かれている。（3）は「自分たちのまちのためにそれぞれが担う役割について」。次が3の「自分たちのまちのために行動する活動」についての施策が書かれている。4として「条例・指針推進のためのしくみ」といった形で概要としてまとまっている。この概要で進めていきたい。

今までと大きく変わっている点が、「条例・指針を推進するためのしくみ」は施策の最後にあったが実効性を確実にするために大きい項目で1個立てにした。

市民目線で読んでいただけるよう、表現を柔らかくした。

指針の3ページ、指針を読むにあたって必要な基礎知識、言葉の説明として、「市民とは」「市民活動とは」を入れる。

(事務局)

・基本は③が指針としてのベースになる。短い時間で議論するに当たっては難しいので、④は議論用に大きな項目だけを抜粋して載せた。1つ1つも大事だが全体構成がこれで良いかを合わせてみなさんのご意見をいただきたい。最後の方に出てくる具体的な施策や協働推進の取組の仕組み、いわゆる「PDCA」を市民の手でハンドリングすることで具体的に実効性を持たせるという方向で4章立てで組み立てていきたい。これをまず皆さんに確認していただきたい。

指針についてはまだ若干時間があり、中の細かい文言については修正可能なので、大枠の骨格を決めて次の細かいステージに上っていくことを今日の大きな目的と思っている。

他には、あらためて条例に振り返って、指針の形態が決まれば、今度、条例のパブリックコメントなどに進むので、条例の基本骨格案を今日みなさんのご意見を整理していきたい。事務局としてはそれに基づいて内部調整が進みやすくなるのでそこまで進めたい。それで指針案と条例素案についての意見交換ということで冒頭の次第にまとめた。

前回パブリックコメントの際、「画期的だ」「想いがある」という意見のほか「わかりにくく」という意見もあった。それについては指針で示していくことで進めている。まず指針の方向性を確認した上で条例に立ち戻りながら議論を進めて行ければと考えている。

今日皆さんにこの指針案を見ていただいて、この指針の説明をもってかつての条例を補てん出来ているかを確認していただくということでおいか。この指針を読んで言い忘れないか、この指針がきちんと出来ていることで条例が成り立つの、そこをしっかりと皆さんにチェックをしていただきたい。

前半で指針の大まかな方向性を確認出来て、議論に入り、みなさんの意見を整理できるところまで進めたい。

- ・基本的な考え方方が分りにくい。
- ・意見交換の中で思ったのは、自分事にしていこうという発想、市民皆が「これは重要だ」と思ってもらわないといけない。関心が低い市民が見た時に、すでに地域で活動をしている人、意識がある人が基準で作られているので基準が少し高い。自分たちのまちを何とかしようという想いを持っている人がスタートで共有して行動してみようという人にとっての指針。すでに活動しようと思っている人は盛り上がるが、それは10パーセントくらいの人かと思う。「自分たちでやるのは面倒」「行政がやれば」と8割くらいの人にはこの条例の必要性が響かない危険性を感じる。

自治基本条例なども自分の事として捉えられないというところが失敗の原因になったかと思う。少し慎重さがあるべきかと思う。

実はそれはこの会議の中では共有出来ていると思う。何で協働が必要なのか、そもそも自分たちで行動しなければならない理由は何かを考えると、震災がわかりやすい。自分の事は自分で守るのが原則。世の中は公助が整っているが、震災は共助の育成が必要である。共助を生かしていくといいまちづくりにつながる。自分で自分の事をする、公がなんとかしてくれる、その間を自分たちで皆のためになんとかしようという部分を成長させていくことが非常に我々の生活を守り、良いまちづくりのために大変大事である、ということが震災を通じて分かったと思う。ボランティアやNPO、協働という言葉は阪神淡路震災以降急に出てきたのはそういうところだ。さて鎌倉はというと、そういう震災の前から図書館を寄付する団体や行政監視団体があり市民のレベルが高度である。自分たちのために行動できる市民がたくさんいるところである。前段にその説明があると、自分事になる。

- ・もう少し多くの人に興味を持ってもらい、自分事として捉えられる説明すること。
- ・市民が行政に何を期待しているのか、市が何をするのか、うまくアピールしないと条例を作った意味がなくなってしまう。
- ・条例ができたあとのPRが大事だと思う。「鎌倉がこう変わる」。検討会のこういう議論を知らせたい。文言にすると硬くなるので、表現するのは難しいが。議論をしている想いをどのように関心のない人達に伝え、そこに入っていってもらえるようにするのかが大事だ。そこを進めて行くための一つのきっかけに出来ればいいのかなと思う。

条例を見ただけでは分からぬが、次のステップで関心のない人も共鳴してくれるような形のものにしていくことが、ここで越えなければいけない一つのハードルだと思う。

書いていないところは検討会で語られてきた想いの部分であり条例に書くのは難しい。その部分を次に示していくような仕組みにしておきつつ、次の段階で出していくのかそこはテクニカル的な面を議論していくところかと思う。何でも条例に書くのは現実的ではない。それが可能となるような条例にしておいて次の段階であがっていくのが大事だと思う。

- ・指針のパブコメが大事である。
- ・指針の頭には説明を入れておいた方が効果が大きそうだ。指針を必要最低限出しておいて、あとでアピールする時にそれがあつて引っ張って来るのでもいい。指針の説明の中に、みんなに関わって来る条例だという説明があることが条例を通すためにも必要。
- ・自助、公助、共助は大事だが、検討会（もうすでに行動している人）の人にとってはまたか、と思う人もいる。自助、公助、共助は散々聞かされている。そうではない多くの人が共鳴するために自助、公序、共助、をもう一度出して、それが響くのか分からぬ。立ち返る事が出来るものを用意し、どこから入っても最終的に紐解けるものを用意した方がいいのではないか。
- ・鎌倉は意識が高く、そういう人が多い。ホームページを見る人が多い。
- ・こんなことでも意識を持っていることになる、自分がそこに足を運んだり意見を言うだけでも市民参加になる、簡単な事でもいいんだと思えるようになる。具体的にお母さんがこの活動を支援しているホームページを見るだけでもそれが一つの協力になる、というように具体的にわかりやすければ、「あ、なんだ私それで意識を持ったことになるんだ」と自分たちレベルだとそういうふうに思える。そこに入れば次が見える。
- ・文言レベルになってしまふかも知れないが、未来が見えるように、どういう風に変わらぬかという点で、「はじめに」の中で「鎌倉のすべての人が主役として輝ける舞台を作る」とあるが、主役として輝くというのを目標においてしまうと重たいかなと。主役として輝かなければ市民活動とは言えないのかと。舞台の中で自分が役割をそれぞれ担っていきながら参加することを一つ後押しする、もう少し緩やかにしてもいいのかなと思う。
- ・市民が主役というのが引き合いでいいかは別として、そこがちゃんと注目されて世の中のしくみとしてきちんと機能していくような社会を作っていくのが 1 つの目標。現実的にすごく地道な努力をされているにも関わらずなかなか評価されない、陽が当たらないというのはおそらく皆さん多分に思っていると思うので、そのあたりがきちんと評価されて世の中の仕組みとして定着するような社会を作っていくことが大事なことだ。
- ・条例というと市民が拒否反応を示す。「わたしたちのまちなんだから」と柔らかい言葉を使っていいるが、これをよく説明する必要がある。条例を作りっぱなしではなく検討会で市民によく説明する必要がある。これが我々の次の役割かと思う。
- ・対象が 2 つある。地道に市民活動に携わっている人、市民活動に対して意識がないがやりたいと思っている人を後押しする、この 2 つをつなごうとして今の文言になっている。市民とはという定義では「鎌倉の全ての人を対象とした条例」になっている。レベル分け（意識分け）で上から目線にならないようにしなければならない。
- ・この条例が市民の中に入っていない可能性があるのはテーマ付けがないから。自分たちのまちなんだから、を考えるとき、地震の時とか、昨今のテーマだと花火大会がなくなつてそれを市民の力でやろうとした時とか、あるいは松戸で起こつたような女の子が殺される、

守らなくてはいけないという具体例がでると市民の中に関心が出る。地震でいうと大船の協議会で避難所マニュアルを作っているが、マニュアルに書かれていることと非常に似ている。

花火大会を市が市民の要望でやる。ここに書いてあることと市長が言っていることは似たようなことなので、具体例が提示されるとすっと入っていけると思う。それに繋げられるようにした方がいいんじゃないのかなと。指針は当たり前の事を書いてあるが、例えば地震の時はもちろんそうだし、その辺をうまく関係付けられるようになれば関心のない 8 割の人も関心を持ってもらえるんじやないか。花火や防災をリンクさせればよいのでは。

・NPO の登録の目的（分野）は 10 個くらいある。皆さんが活動しようとしているのがどの分野か、市民活動の目的を分りやすく説明できればいいのではないか。何か住みづらいと思っていること、何をしようといっているのか、子ども、高齢者などを例に初めの部分に盛り込めたらよいと思う。

・花火はすごくアクションがある。防災とか色々なテーマがあつてそういうテーマを抱えながら具体的な動きとしては凄く分りやすいなと思う。今回やろうとしているのが、システムでいえばアプリというよりは OS の部分を整備すること。OS をどうやって PR していくか。アプリの部分は見る方には非常に分かりやすいが、OS の部分をどうやって示していくのか、その辺はもうちょっと詰める必要がある。どの様なアプリにも使える OS ですよと PR していかなくてはならない。

・テーマが地震の時とか犯罪が起った時とか花火の時とか、すべてに活用できるような指針にするのがよいのではないか。私達の生活で起こる様々なテーマをとか最初に持つて来ればいいのかなと思う。

・前置きの中に具体的な提示をするといいのかもしれない。例えば鎌倉を例に挙げるなら花火でもいいし環境、福祉、まちづくり、様々な課題に立ち向かっていくには、いわゆるそれを動かすための OS の仕組みが必要だと。それを市民の手で作り上げようというのが前文の中に入ると分りやすいと思う。

・何のために作るのかということが分っていないかもしれない。

・すごくいい提案だと思う。それを冒頭の始めの中に入れたらどうか。

・現在組み立てている 4 章立ては、基本的には 2 章以降は OS の部分である。最初を読むと 2 章以降の OS はこういうことのために活用していくということが分かるのではないか。

・鎌倉はこの条例でこう変わる、ということがどこかにあったほうがよいかなと思う。

横浜は 30 年前の方が市民活動がやりやすかった。市の方針として職員が外に出る。市民活動をしている者としては一緒にやりやすい。その頃は施策もセンターもなかったが、環境として誰でもが担わなければならないという雰囲気があった。それを作るにはどうしたらよいかと考えている。

・市民意識の中に一緒にやらなければならない感、助け合うというのが標準としてあった。

・市民側のネットワークが出来たが、今はネットワークが出来ない。行政が仕事を出すよう

になったから仕事の取り合い、足の引っ張り合いになっているのではないかと思っている。

(指針に) これからは市民団体に仕事を出しますと書いてあるが、逆効果になることも。指針によって皆が鎌倉の活動に参加できるようになるにはどうしたらいいのか。自分がやっていることがまちづくりだと思ってもらえるにはどうしたらよいか。

・後半の評価に入れたり、それぞれの活動しているグループの内情を把握し共有できるようにし、自分の立ち位置を見えやすくする。自分の立ち位置に対してどういった事が出来るのかを索引出来るようにしたらどうか。大分出来ているとは思うが。

・1つの視点だけで評価は出来ない。4番のPDCAのチェックの部分で、時代によって変遷する。常にチェックをしながら時代にあった取り組みをしなければならない。元々市がNPOに仕事を外注していくなかった時にはNPOがやりやすかったが、外注するようになったら取り合いになった。逆に言えば仕組みを変えれば市民側の対応も変わってくるわけで、そうするとそれに合わせた分析だと、変えていく仕組みが必要になる。チェックを誰がどのようにするのかは当然考えていかなければならないが、チェックの部分を置くことが必要かと思う。

冒頭の部分で全てを今の段階で書ききるというのは難しい。書ききるまで議論していたらなかなか次のステージに上れない。決めたらその通りにレールの上を走るという仕組みではない。決めたらそれを足掛かりに様々な仕組みを作っていくという流れなので、そうすると逆に今提案しているこれまでのPDCAをどう作っていくのかというところを一つの目的として、この条例の成果として整理していけたらと思う。

・PDCAはどうなのだろうか。最近ヤフーニュースで、日本はPDCAサイクルに毒されていると出ていた。

・PDCAという言い方は別としても常にチェックをしていく姿勢というのが必要。常にチェックをしていくのを行政がやるのかどうかは大いに疑問だが、そこをきちんとここで整理していく必要があると思う。

・分野を分けて出していくということに対して、もう既に鎌倉の中では既にそれぞれの分野で先進的、先行的に頑張っているグループがある。そこは更にリード役を考えて欲しいし、新しくやりたい人はそこに相談してもよい。ゼロスタートではないということを書く。

・メンターとなるような団体がいると新しい団体がうまくマッチングしながらノウハウをとかテクニカル的な部分を学びながら新しい団体も次のステージへ上っていく。マッチングの仕組みも必要である。

・それは指針の後ろに書いてある。そういう現状だから色んなレベルに対する方針が書いてある、というのを前段で書けばいい。

行政側は、部署で意識の差が大きいので、それぞれの目標を持って、そこに対して、条例がアドバイスや施策を用意する。市民側、団体、行政側、それぞれの意識レベルに対してこうしていきます、というのと、それぞれの分野に対してこうしていきます、という、分野と意識レベルを網羅できていることが見えるようにするといい。

- ・指針の内容はこれで良いと思っている。条例にしても指針にしても理念条例のようなことなので。意識のない人が条例を見た時にどんな文章にしても響かないし、そもそも見ない。重要なのはどう広めてどう理解してもらえるかを考えた方がよい。一番いいのは条例や指針を考える会に多くの人に関わってもらう。広めていく過程が条例を体現する場所である。それを考える委員会を早く立ち上げるべき。検討会の人達が条例を広める役だと思う。
- ・基本はこの4章を軸に整理するということで進めて行くことでよいか。指針の最後を見たとき、結論は何かというと、市民の手でこういった取り組みをハンドリングしていくというのが一番である。その部分を一応記載しているので、そういう意味では4章でとりあえず今までいただいたご意見が項目的には網羅されている。表現はまだ調整するが、これを整理していくことにより指針として固めていければと思う。
- ・普通の市民が見た時に、これは大事だと思えるような見せ方ができるといい。
- ・見せ方はこの先議論して組み立てていく中で決めていければ。
- ・これによってこう良くなっていく、という見せ方、結論でこう目指すということが最後に来るとよい。自分事に繋がっていくような文言で前段か最後に書かれているとよい。指針は条例と違うので色々な形やパターンがあり、割と自由度が高い。色々な可能性がある。
- ・ひと言でいうと何でも書き込める。条例と違って制約もないで、ある程度現局の立場で整理が出来る。想いの部分というのは書き込んでいける。
- ・パブコメはこの条例案と指針案の概要版を出すのか？
- ・条例案と、ピックアップした指針の概要を出す。
- ・基本的にパブリックコメントは一言一句書く必要はない。以前条例を作ったときには、条例は読みづらいので、こういうものをやりますというポイントだけ落として、パブコメで意見をもらった。ただ今回については意味合いが違う。前回パブコメに出しているので基本的には条例についてはそのまま出す必要があると思う。ただ指針のところまで、てにをはのチェックを受ける必要はないと思っているので、指針はエッセンスを整理して出す方向で調整したいと思っている。できれば本質の議論の意見をいただきたいと思っている。「私は市民活動をやったことがないからこの部分については理解しにくいな」という意見があればそういう意見をいただいて、整理していきたいと思っている。完全な指針を出すというよりはまず4章立てなら、こういうことをやります、これはこういうことを目標としていますという事を整理して出せればと思っている。最終的には内部調整が必要だが、そういう形で指針については示していければと思っている。
- ・条例がふわっと柔らかく、理解してもらうための条例として作っているので、逆に指針がしっかりとしている必要ある。概要だとざっくりと理解されてしまう心配はないか。
- ・整理していく中でどちらがよいか検討していく。文章にしてしまうと分かりにくいという意見も聞くので、そういう意味ではどういうメニューがあるかということを示していく方がいいかと思うが、何十枚にもなる指針をそのまま載せていく方法もあるとは思う。
- ・わかりにくいくらいの何がわかりにくいか。具体的に何をしていくのか、もそうだが、

それがあつたらどうなっていくか、未来像、やってみよう委員会があつて PDCA があつて、これが起こると市民にとってどう良くなっていくか、が結論にないといけない。

・OS の仕組みを作る難しさでアウトプットが一般の人に見えない。ここで議論されている方は色々な事をご自身の活動にあてはめた場合に、こういうことを自分の活動に使えるか使えないかというシミュレーションができる。一般の人から見るとこれがどういう結果に繋がるかが見えないという部分があると思う。その部分がここに出し方の難しさかなと思う。

・教科書的な事を言うと、「こういうまちなら住みやすい、そこに住んでいる市民は社会課題に気付く力があり行動に起こしやすい、思った事をつぶやいたり、形に出来る、形にしたものをお互いに助け合える、事業者、行政ともネットワークが出来る、色んな人が色々な役割をもつていて色々な立場で動くことが出来る」というのが見えてくると、居心地がよいまちになるのではと思う。

・市民活動支援の説明はそれが一番いい。

・市民活動支援だけでなく、市民団体同士も助け合わないといけない。

・批判への対応に時間をかけるより、速やかに条例を通して次に進むことが重要だと思う。
分りやすくするというところに条例とか指針を傾けるところ。

・条例の実効性が見えない、これをやって何が変わらのかが見えないという意見があった。
見えない条例ではなくて、やろうとしていることが伝わっていないので伝えていかなければならぬ。

・指針の中にあらゆるテーマに対応できる仕組みを作るということが大事。鎌倉市で課題となっていることに市民が取り組む場合に、対応できる仕組みを作るのだと。

・これで何が変わるかはテーマごとに具体的に示すと良いのでは。

・この会議をもっとオープンにし、議員さんにも聞いてもらつたらどうか。

・極論だが、条例があつても自分たちがアクションしないと変わらない。ただ、考え方として立ち返るときに条例があるとよいということ。出来た後が大事である。あまり盛り込み過ぎるとかえってわかりにくくなるのではないか。

・指針の発信元が行政なのか、市民サイドのこういうグループからスタートしているものなのか、市民グループが勝手に作ったものとするかで受け入れられ方が全然違つてくる。行政がつくると拒否する人いる。でも大胆な事も書いてあるし、市民の責務が書いてあつたり、行政がつくったものではないという良さを理解してもらい、市民団体の皆さんの中間が作つてあるからかなり意識が高いという空気感が出せるとすごく良いと思う。高飛車だという意見がパブコメで来ないように、市民が考えているということが示せるとよい。

横須賀の指針は、市民や専門家が入つた研究会がつくつた提言をそのまま書き換えてるので、それがわかれれば納得できる。

・指針は委員会の名前で出すことができるのか。

・この文案はみんなで考えたものがベースになっている、みたいなことが書けないか。

- ・行政の指針とするかどうか。委員会の名で作ると一団体からの提言になってしまう。一段体からの提案とするより、行政の指針とすることによって実効性を持たせるというのがあるので、検討会で議論されたものを整理して行政の指針とするのが現実的なところかと思う。情報公開の対象にもなるし、市としてどう考えているかということが出せる。
市だけで作ったと見えないように、読んでわかるように見せ方を工夫する。誤解を与えないようにということ。
- ・福祉は社協と市が連名で計画を作っている。
- ・社協は組織だが、検討会は委員型の会議。その良さがある。市民がつくっているということは何かしら示していく。
- ・100%を求めるのは難しい。これだけ審議したので、これで良いのでは。
- ・(事務局) 今日の段階で一旦整理して、後は事務局で作業させてもらいたい。4章立てで、あとは中身を整理していくことについてはおおむね皆さんの合意が得られそうなので、次に進むために条例の骨格に戻りたい。

【条例草案について】

(事務局)

- ・条例案1は現行の形を生かした修正案、裏面が案1の現行の形を生かした修正案の委員会条例、案2が条建て案、案3の宣言案、裏面が案3の宣言の場合の委員会条例案となっている。案1の資料としては12月の検討会で皆さんにお配りしたものと全く変わっていない。パブコメを受けた後の資料である。案1について、初めの条例案に対して実効性を持たせるためにどうしたらよいかという部分で追加した部分に網掛けをしてある。委員会の設置を入れるとか、人的、物的、財政的支援をいう文言を入れたものが案1、基本的理念が書かれていて条建てにはなっていないものである。

案2は条建てにしたもの、理念は生かしながら形式を条建ての形にしたものである。第3条のところには支援の内容を項目建てにしている。条建て案は委員会条例をこの条例の中に含んで一つの条例にしたものである。

資料7の案3の宣言案は最初にパブリックコメントした時のものを「条例」ではなくて「宣言」に変えたもの。「宣言」にした場合にも、委員会を設置して進行管理をしていくということで委員会条例だけ条例として制定するという案である。

- ・若干の補足をする。条例をつくる場合、法制部門と調整をして例規審査会という幹部の審査会にかける。それを突破したうえで議会にあげていく。基本的にはもともと宣言案となっていたものを皆さんに条例として示していたかと思う。本来で言うべき条例の形をしていないということで、そのことについてまだ法制担当の了解を得られていないのが現在の状況である。パブコメで、条例としてどうなのかというご意見をいただいている中で、どうすれば変えて了解を得られるかという形で出したのが案1案2である。

・これまでの議論を聞いていくと、「宣言」という名前になっているが案3で議論したこの表現を皆さんはPRしたいかと思う。条例だからと言って書き換えるよりは、自分たちのまちなんだから自分たちで何とかやってみようという想いを共有していく。前置きと理念の表明というのを一番PRしていきたいところなのかと思う。

この部分を少し変えてあくまで条例化にこだわるのか、この部分を全面にしてPR出来る形にするならば宣言という手法もあるかと思う。もう15回もご意見をいただきて、次の段階へ進むためにある程度課題は見えてきたので、そういうといついくつかのハードルがある中でその辺りのご意見をいただきたい。出来れば条例の方向性をどうするのか、今日のまとめの中で整理したい。

条例にするかどうか、率直な意見はいかがか。

・条例にしたい。

・言われているのは条例にしないと多分紙1枚で終わってしまい、何の拘束性がないからというところですよね。

・拘束性というよりは、この条例が出来ましたというのを認知して活用していくために広げるということが大事だと思っているので、全国で一番長い条例名で、中身が理念条例である、条例でこの形を取ったのであれば、一つ注目してもらえる要素になると思う。

宣言だとあまり興味を持つてもらえないで案1で私はいきたい。

・案1と案3の違いは、案1は網掛けの所が増えたのと委員会条例が別に付く。これまで皆さんに議論していただいた内容は、やっぱり実効性を持たせたいということだと思うので、理念条例なので実効性はありませんと言い切ってしまうのも私はどうかと思っている。実効性を持たせるために、元々の文章に何らかの手を加えなければならないと思っている。

・もし案1でパブコメをするなら、案1の条例案と指針のエッセンス、委員会条例と、2つの条例案が出てくるのか。

・そのとおり。そうしないと、例えばやってみよう委員会の条例を後にするとなったら担保がないと言われて終わってしまうので、やる場合には全部セットだ。2本立てになるが、条例自体を出すときには一緒に出さないといけない。ただ、簡潔に想いをPRしていく主旨からどうなのかというところがある。そのところを議論していただければと。

・案1と案3の違いは、「ですます調」か「である調」か。条例にするには公文書作成規程の中で、である調でなければいけないという決まりがあるのでこういう硬い表現になってしまふ。

・受け取る印象も変わってしまうというのが正直ある。実際に作業していくといろんな壁が出てくるので、こういうような部分が出てくるというのを、皆さんにきちんとお示しした上で議論に入っていただければなど。

・条例案ではなくて宣言案くらいのほうが、自分たちのことだと住民が飛びついてくる可能性が高いと思う。条例はお上が作ったものと感じる。

・私もこれまで条例を2本作ったが、条例は理解するのが大変。どうしても法令的なものに

直していくとなるとわかりづらくなる。実際に私が前にやった職場で施策については別な形でもっと分りやすい形にして PR している。条例を配って PR するより中身を PR しているケースの方が多い。

・法制担当も例のない条例案なので慎重になっている。当然、法制部門も職責があるので、その職責として法制上違反でないのかを問われる。全くの違反ではないとしても、従来のものになりがちな部分がある。

・1つの改革だと思う。

・細かいところではあるが、改めて目を通した時に変えていくと印象が変わってしまう。この中で言わんとしている想いが条例を配った時に伝わるかどうかというのは不安である。

条例を作つて終わりではなく PR の方法は別途考えてやっていかなければいけない。その中で表現が変わってしまうことについて、皆さんはどう思われるかお聞きしたい。

・ですますとであるに限つてだけ言うと、ですますの方が身近感があつて、である調は偉そうに見える。印象の差はあるが中身は変わらない。

・説明する時はですます調でもある調でも中身は同じだと言うが、市民感覚としては受け取る側の印象が大事だと思うので、その辺りがどうかと思う。広めていくということで考えるとどうなのかなと思う。

・ですます調の方が響く。前提として行政から市民に伝える考え方になっている。言っていることが多くの人に関わつてもらって条例を知つて広めてもらう側にとって、その人が的確にこの条例を知つていく。その時に宣言を広めるのに関わるか、条例を広めるのに関わるか、と言われたら、どちらかと言つたら日本人は条例を広める方に加わつたほうが市政に関わっている感が出るんじゃないかと思う。そうなつた時にあえて、である口調の方がそういう感じが出るかなと思う。

・これまでずっと条例を作ることを目指してやってきたはずなので、改めて宣言はあれ?と思う。

・条例と宣言では、宣言はどちらかというと理念をそのまま表す、条例は理念条例というのもあるが、基本的にはなんらかの仕組みを決めるためのもの。

・市民の活動を推進していく仕組みを作るために話し合いを進めてきたので、条例を作る。

・条例を作ることをやめて宣言にしましょうということではなくて、これをこのまま生かしておいて条例は条例で作るというのも選択肢としてあるかと思う。宣言を生かした同じ内容で条例化して制度化していく。

・そういう手法で考えられるのならば、どういう形になるかは次の時に提示させていただく。この宣言に実効性を持たせるためにその内容をもつて条例を作る。想いを伝える PR は宣言で行う。ただ宣言と言う表現をするかはまだ今日議論していないので仮である。

宣言に、である調の条文のものがもう 1 つあって、その中で実効性は担保していく。条例の方にやってみよう委員会をきちんと謳つておけばいい。

宣言にしたら条例をやめるというのは少なくともこの中の選択肢にはないと思っている。

条例化するというのはもう基本的には決まっている。ただ条例を通して仕組みを作っていくために、その先にどうやって今の想いを PR していくかを議論した時に、若干文章を改編しても条例という形にこだわるのか、うまくツールを使い分けて宣言の方が上位に来るようなステージが作れるのであればその方法を模索してみてもよい。

- ・このニュアンス、宣言を前面に出していく、条例としてはきちっと制定すること。
- ・書いてあることは同じである。こっちにはやってみよう委員会と書いてある、条例の方にはきちんと書いておいてその中で動きとして担保しますというのはやり方としてはある。
- ・(宣言+条例では煩雑で) 面倒になるかも。
- ・皆で指針を考えたから気持ちが次のステージに行っている。そうすると条例はどうだったかな、みたいな雰囲気が若干流れている。でもそんな時こそやっぱり原点に返って普通の市民が読んだ時どうだろうというはあるかもしれない。
- ・仕組みとして作るという話と想いを PR していく話とそこは多分両輪と思う。
- ・広報の視点からはどっちがいいんでしょう。
- ・根本的なところだが、条例はですます調が何故だめなのか。
- ・鎌倉市の公文書作成規程で決められている。
- ・規程と条例は違うのか。規程を変えることは出来ないのか。
- ・府内の文書作成に全部影響してきてしまうのですぐになれない。
- ・そういう意味では鎌倉市自体の根本的な市民との向き合い方みたいなものに、この話の根源があるのかもしれない。
- ・この条例に関連して公文書作成規程を変えるのはハードルが高い。公文書作成規程に照らして規程違反ではないのかと問われる所以、そうするとそこの部分をクリアしていくには現行の法体系には合っているという説明をするのが一番いい。
- ・委員会の意見としてとても固くてやりにくかったというのは言えないか。
- ・条例だったらちゃんとした規程集に入るけれど宣言だったら入らないというようなことはあるのか。
- ・基本は宣言は規程集に入らないが、それを重視するならば事務局で調整する。宣言になると扱いが軽くなるというのを皆さん心配されているとしたら、宣言になっても扱いが軽くならず、逆に条例よりも手厚く扱われるような形になればよいのではないか。それならばその方法を検討して次回にでも提案させていただく。
- ・皆さん宣言の方がよいか。
- ・条例の方が重い。
- ・かえって面倒くさくなりそう。宣言と条例はどう違うのか説明しろと言われても、私達も良くわからない。
- ・条例の方がいい。
- ・基本的にそういうイメージだとしたら、せっかく動いていただいて宣言に重きがあると言う説明をまたする形になってしまふ。やはり広めていく、これから先の所が大事だという話

を皆さんされている中で、通りやすいのだったらこちらで通して次に行こうよという気がする。案1だったら通る可能性はあるのか。

・現行を生かして調整すると、おそらく通りやすいのは案2の方。これだと本当にかっちりした条例になってしまう。

・オール鎌倉でやりましょうという話なので、議員さんも一緒に議論して仲間になってもらいたい。

・プロセスの問題であって、条例の中身に反対する人はいないはず。

・やってみよう委員会でその場をつくればよいのでは。そういう場を作ることが大事。

私は条例にしたいと思っていて案1がいい。

・条例で集まったのだから条例にすべき。

・法制担当からもアドバイスをもらえるという事は全然だめということではない。

・同時に指針もセットで見せている。条例だけだと理念なので条例にする必要性が本当にあるのかというところが元々問われていた。

【条例名について】

・一番の壁がタイトルである。タイトルは短いのが基本で、簡潔に分かりやすくしなければならない。

・長いのにしようと言ったのは私で申し訳ない気がするのだが、話題にするということを目的としていたので話題に出来るタイトルになるのであればこれでなくてもいいと思う。

・重ねていくと改編しちゃうのかなと心配をしている。それでこれまでの議論の想いが上手く伝わるか気になっている。

・日本一長い名前の条例というのが1つのポイントだった。

・九州の方でもっと長い条例が先に出来てしまった。

・短くてもエッジの聞いた名前にする。

・キャッチコピーのようにみんなが分りやすく覚えてもらえるような名前とか、愛称でもいいと思う。

・鯖江市はいわゆる案2のような条例だが、キャッチコピーを別に作っている。「市民が作る世界の鯖江」キャッチコピーを募集して、そういうところでPRしている。

・条例タイトルを長くして目を引くようにし、条文はちょっと硬くするという妥協案もあるかもしれない。

・今の段階で確実とは言えないが通る可能性は高いのは案2だ。前回のパブコメを見ると賛否両論だ。賛否両論というのは賛成と思っているが、否の人にも本質のところで意見をもらいたい。

・名称の長さは本質の議論ではないが、なぜルールに則ってやらないのかと言われてしまう。

・多くの市民に興味をもってもらうためという大前提がある。

- ・説明する時はそういう主張をするが、最終的なジャッジは議会にある。一度出して反対されたら内容をえないと出せなくなってしまう。今回も一回延期したので、延期しただけの効果を見せる必要がある。延期したことによってこれだけ確実に通すだけの議論を重ねたと見せる必要はある。
- ・条例案のタイトルというのはこれで決定か。例えば自分たちに関わる様々なテーマを頭に入れると、人民による人民の・・とすると長くもなるし分りやすくもなる。自分たちが抱える様々なテーマを自分たちのまちなんだから自分たちでなんとかやってみよう・・となり、先ほどのテーマ性がでる。
- ・長いタイトルがよくないというより、基本は短く、より簡潔明瞭に書くのが条例作成上の方針だと言われている。
- ・国の作る法律は正式名称が長い。
- ・そういう意味では簡潔などという根拠はない。
- ・市民に準じて、市民のために説明的な文章にした結果、長くなったということ。
- ・言葉遣いの問題かなと思う。
- ・どちらが優先されているのか。お行儀のいい言葉にして長いのなら良いのか。
- ・丁寧な言葉にしたら大丈夫なのかどうかは確認していないが、タイトルを見て皆さんがその条例の内容が理解できる、間違なく同じ内容で理解できるタイトルになっていないといけないと言われている。何とかやってみようというの人は人によって捉え方が違ってくる。
- ・「自分たちのまちの課題を自らが解決する想いを共有して行動するための条例」ではどうか。
- ・明快だが、あまりに具体的すぎてつまらない。
- ・長いとか、くだけているとか、いろんな条件がミックスして反応している分、どこに原因があるのかちゃんと説明が出来ないので。そういう意味ではこのまで通ったらそこは本質でないことが証明出来てしまう。
- ・法制担当は、条例を例規審査会にかけたときに指摘されたことをクリアできるか、次の幹部の会議でまた同じような指摘を受けた時にクリアできないと議会に出せないとということを心配して助言をくれている。
- ・ちゃんと説明して同意を得ないと条例が完成しないということか。
- ・例規審査会は様々な部署の責任者がそれぞれの視点で意見を言う。
- ・前例のないものは一番難しい。私が前に作った条例も前例がない条例だったが、基本的に条例の形で作っているので文章そのものは議論にならず、本当に本質論だけだった。
- ・市長が責任を持ってそれに対する意図、是非これでやりたいという想いがあれば、通るのではないか。
- ・どこにどのような問題があるかというのは全部議論されて記録には残る。意思決定は市長だが、市長がやると言ったら誰も意見を言わないかというとそうではない。課題があっても何も言わないのは組織として不健全なので、それぞれの課題のところは指摘される。

- ・この条例の中身そのものがまさに初めて出すもの。市民活動を支援して市民活動と協働を推進していくという試みそのものが新しい試みなので、それを初めて市の姿勢として議会の承認を受けて条例として打ち出そうとしている。その部分はまず揺らぐことはない。その部分について色々な意見に対して我々の方できちんと一つ一つ説明していかなければならない。条文がいろんなところで議論を呼んでしまい、本質の議論よりもそちらの方で意見されるのはよくない。我々としては本質を議論して、本質の中でこの仕組みを作ることで、いわゆる市民活動を地域の基盤として強化をしていくための OS とするための条例ということを PR していくを中心にして議論を進めたい。
- ・逆にこれだけ指針を出してきてるので本質はしっかりしてきていると思う。それで例えば指針の中にここまでかっちり出来ているのでより多くの市民にこれを普及させていくために条例の名前は市民に親しみやすいものにする、それも実は方針であるということ。逆にこちらで謳って、だからこの条例の文なのだというのを逆転していく発想もあるかもしれない。
- ・やり方はいろんなアプローチの仕方がある。ただそれが理解されるかどうか。進めるに当たって確実に条例にするための手法としてどういう方法を選択していくかということだ。
- ・先の協議の場で、ふざけているとか、何か目立とうとしているとか、我々が考えている本質とは違う議論になって否定されるのは不本意だと思う。ちゃんと我々が考えたものであるということをきっちと主張するということを職員の皆さんのが弁護して下さるのは有り難いけれども、我々が考えたものを表現した上での結果なのだということを証明していく何かというのもいるのかなと思う。その方が説明もしやすいでしょう。
- ・指針の中で、今までの条例とは違って、一人ひとりに自分のことだと感じてもらうことが重要であると示し、だから条例がこの形になっている、というようにならないか。全国で一番長いとか話題になるという説明ではなく、まじめさがちゃんとわかるように。
- ・通りやすいというか一番すっきりしているのは市民活動・協働推進条例とかだと思う。
- ・それに副題をつけたらどうか。
- ・条例は条例として整理するなら今のやり方でいくらでもある。PR したいものをきちんと示した上で条例として整理するのであれば、今言ったものを本文の中に盛り込んで何らかの作文をするとかテクニカル的には可能性はあるかもしれない。ただタイトルではなくなってしまう。
- ・大体皆さんのご意見をいただいたので、次回までに今いただいたご意見を受けて 2 パターン用意する。このままで行くか、元の条例をそのまま生かした PR 用はと、それを条例にした二段階のものか。それがちゃんと効果があるものだというのを示せるような提案が出来るかどうかを検討して皆さんにお示しする。その上で、案 1 で行くのか別のものをとるのか

議論していく。今のこの状況のままだといろいろな方法が出てくると思うので、その部分を整理したうえで次回 13 日に分かるようにご提示した上で議論していただく。

- ・今日はちょっと参加人数が少ない。他の方に質問を投げてみて整理していかれると良い。
- ・今日指針の構成はほぼ了解いただけたかと思う。いずれも大体イメージが固まってきたので、事務局の方でまとめさせていただいて作業を進めて具体的な形でお示ししたい。
- ・次回は指針も一緒に検討するか？
- ・期間が短いので、指針も一緒に全部煮詰めるというのは厳しいと思うので今日のものに若干修正したくらいまでかと思う。どちらかというと今の話だとイメージをきちんと出した方がよろしいのかなと思うのでそちらの方の作業に集中させていただく。

4 章立てで行くというのはまずポイントで、それに基づいた整理は進めていく上でまた皆さんにご提示させていただく。

- ・色々な物を投げさせていただいたが、議論が高度なものになっていくほど、ここで盛り上がれば盛り上がるほど完成に近づくのは勿論だが、一方で、内輪で盛り上がる怖さみたいなものは出てくるので、是非そういう目線も忘れずに。それから常に意見交換を持って、この良さを生かしながら、引き続き頑張りましょう。

あと皆さんの中で回りに広げていただいて家族の中でアピールしてください。